
キヤノン株式会社

2022年第3四半期 決算説明会

2022年10月26日

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。

■ 2022年3Q実績	P 2~4
■ 2022年最新見通し	P 5~7
■ ビジネスユニット別詳細 (2022年3Q実績/2022年最新見通し)	P 8~14
■ 財務状況	P 15~16
■ サステナビリティへの取り組み	P 17
■ グローバル優良企業グループ構想PhaseVI	P 18
■ 参考資料	P 19~21

2022年 3Q実績のポイント

- 製品供給の増加により販売台数を伸ばし、7四半期連続の増収
- 数量増、円安、価格対応によりコスト増の中でも大幅営業増益

(億円)	2022年 3Q実績	2021年 3Q実績	対前年
売上高	9,961	8,333	+19.5%
売上総利益 (売上総利益率)	4,510 45.3%	3,880 46.6%	+16.3%
経費 (経費率)	3,696 37.1%	3,293 39.6%	
営業利益 (営業利益率)	814 8.2%	587 7.0%	+38.7%
税引前利益	791	793	-0.3%
純利益 (純利益率)	541 5.4%	493 5.9%	+9.7%
USD	138.40	110.10	
EUR	139.40	129.86	

上期は半導体などの部品不足に上海ロックダウンが加わり、需要に見合うだけの製品供給ができない状態が続いていましたが、第3四半期は設計変更や代替品調達などの対応をさらに進め、概ね計画通りの数量を生産することができました。製品供給量の増加により、各事業で販売台数が昨年を上回り、為替の円安も後押しし、売上高は対前年プラス19.5%の9,961億円と、7四半期連続の増収となりました。

通常の事業活動の結果である営業利益については、販売数量増や円安効果に加えて、部材や物流コスト高騰の一部を販売価格に反映し、対前年プラス38.7%の814億円と、大幅増益となりました。

急激な円安の進行により、親会社でグループファイナンスの外貨建て借入金から為替差損が生ずる影響で、税引前利益は、わずかに減益となりましたが、純利益については541億円と、対前年プラス9.7%となりました。

2022年 ビジネスユニット別PL(3Q)

- 全ビジネスユニット増収、プリンティングのみノンハード売上減で減益
- イメージングとインダストリアルは2桁の高利益率

(億円)		2022年 3Q実績	2021年 3Q実績	対前年
プリンティング	売上高	5,515	4,592	+20.1%
	営業利益 (%)	406 (7.4%)	603 (13.1%)	-32.7%
イメージング	売上高	2,029	1,538	+32.0%
	営業利益 (%)	366 (18.0%)	177 (11.5%)	+106.4%
メディカル	売上高	1,261	1,157	+9.0%
	営業利益 (%)	64 (5.1%)	60 (5.2%)	+7.5%
インダストリアル その他	売上高	1,545	1,304	+18.5%
	営業利益 (%)	160 (10.4%)	15 (1.1%)	+986.6%
全社消去	売上高	-389	-258	-
	営業利益	-182	-268	-
連結合計	売上高	9,961	8,333	+19.5%
	営業利益 (%)	814 (8.2%)	587 (7.0%)	+38.7%

ビジネスユニット別に見ますと、

プリンティングは、部材不足の緩和による製品供給の回復により各プリンティング機器の販売台数は前年を大きく上回り、増収に貢献しました。利益についてはレーザープリンターやインクジェットプリンターのノンハード売上の減少により減益となりました。

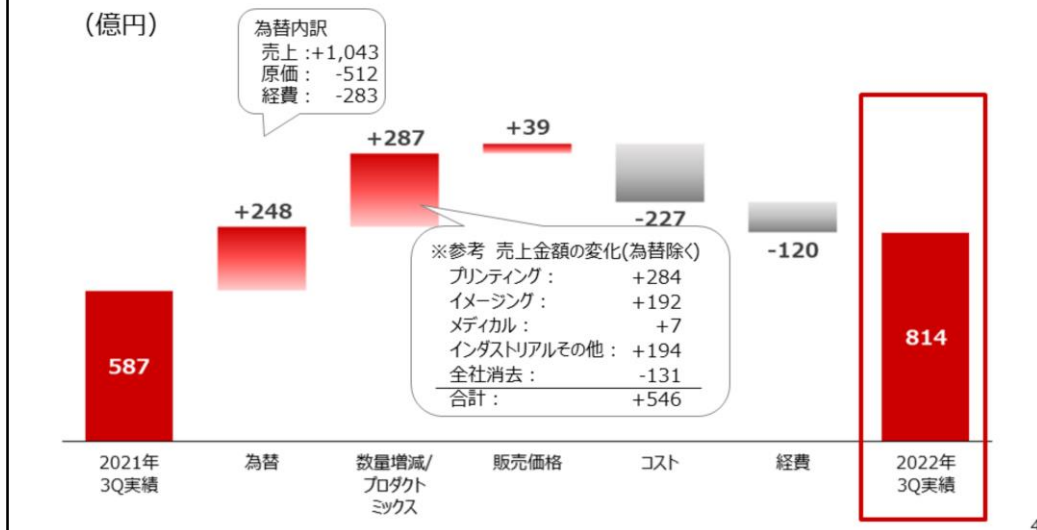
イメージングは、レンズ交換式カメラの販売台数が、同じく部材不足の緩和による供給量の回復により、対前年で増加に転じ、交換レンズも引き続き好調を維持し、対前年32%の増収となりました。営業利益は収益性の高いミラーレスカメラEOS Rシステムの構成が増えたことで前年から倍増し、利益率は18.0%まで高まっております。

メディカルは、国内の補正予算により昨年の売上が高い水準にありましたが、高画質のプレミアムシリーズを中心に超音波診断装置が台数を伸ばしたことで、増収増益となりました。

インダストリアルその他は、パワーデバイスやロジックなどの成長を背景に半導体露光装置が販売台数を伸ばし、大幅な増収増益となりました。利益率も10.4%と、2四半期連続で2桁に乗せております。

2022年 営業利益分析(3Q)対前年

- 為替は、対大幅な円安によりプラス影響
- 製品供給増により、販売数量が前年から伸び、大きな増益要因



営業利益の変化を要素別に見ますと、

「為替」は、対ドル、ユーロともに対前年で大幅な円安となり、248億円のプラス影響となりました。

「数量増減」については、製品供給量の増加により、それぞれの事業で販売台数を前年から伸ばした結果、287億円の増益要因となりました。

「コスト」については、引き続き部材や物流コストの高い状況が続いており、対前年で大きくマイナスとなりました。

2022年 最新見通しのポイント

- 景気減速によりプリンティングは需要軟化も、その他の需要は堅調
- 第4四半期売上を大幅に伸ばし、年間売上は4兆900億円
- 営業利益は3,850億円（9.4%）へ上方修正

(億円)	2022年 最新見通し	2021年 実績	対前年	2022年 前回見通し	対前回
売上高	40,900	35,134	+16.4%	40,800	+100
売上総利益 (売上総利益率)	18,660 45.6%	16,278 46.3%	+14.6%	18,500 45.3%	+160
経費 (経費率)	14,810 36.2%	13,459 38.3%		14,740 36.1%	-70
営業利益 (営業利益率)	3,850 9.4%	2,819 8.0%	+36.6%	3,760 9.2%	+90
税引前利益	3,670	3,027	+21.2%	3,780	-110
純利益 (純利益率)	2,500 6.1%	2,147 6.1%	+16.4%	2,620 6.4%	-120
USD	133.29	109.93		128.37	
EUR	138.22	129.94		136.28	

22年4Qの為替影響額
(1円の変動による影響)

	売上	営業利益
USD	30億円	9億円
EUR	17億円	8億円

5

前提となる第4四半期の為替レートについては、足下の状況を勘案して、ドルを148円、ユーロを144円としております。

世界経済は、モノ不足やエネルギー価格上昇による歴史的な高インフレに収束の兆しは見えておらず、世界各国における金融の引き締め、景気の減速は当面続くとみております。

そのような経済環境の下で、当社関連事業の中でプリンティングについては、レーザープリンターやインクジェットプリンター本体と、オフィス複合機を含めたノンハード売上が需要の下振れにより今回、計画を引き下げました。カメラや商業印刷では需要に大きな変化は見られず、メディカルやネットワークカメラ、半導体露光装置については引き続き大きな成長が見込まれています。製品の供給を着実に進めて売上に繋げ、第4四半期は対前年27.2%増の1兆2,158億円の売上をあげ、年間では4兆900億円の売上を目指していきます。

営業利益については、数量の減少するプリンティングの販売関連経費を中心にしっかりとコントロールし、前回公表を90億円上回る3,850億円とし、利益率は9.4%まで高めてまいります。

2022年 ビジネスユニット別PL(年間)

- 全てのビジネスユニットで増収増益の計画
- プリンティング引き下げも、イメージング改善により全社利益は上方修正

(億円)		2022年 最新見通し	2021年 実績	対前年	2022年 前回見通し	対前回
プリンティング	売上高	22,947	19,388	+18.4%	23,200	-253
	営業利益	2,337	2,257	+3.5%	2,519	-182
	(%)	(10.2%)	(11.6%)		(10.9%)	
イメージング	売上高	8,095	6,535	+23.9%	7,711	+384
	営業利益	1,216	787	+54.5%	981	+235
	(%)	(15.0%)	(12.0%)		(12.7%)	
メディカル	売上高	5,219	4,804	+8.6%	5,092	+127
	営業利益	382	294	+29.8%	400	-18
	(%)	(7.3%)	(6.1%)		(7.9%)	
インダストリアル その他	売上高	5,924	5,457	+8.5%	5,982	-58
	営業利益	583	443	+31.6%	568	+15
	(%)	(9.8%)	(8.1%)		(9.5%)	
全社消去	売上高	-1,285	-1,050	-	-1,185	-100
	営業利益	-668	-962	-	-708	+40
連結合計	売上高	40,900	35,134	+16.4%	40,800	+100
	営業利益	3,850	2,819	+36.6%	3,760	+90
	(%)	(9.4%)	(8.0%)		(9.2%)	

6

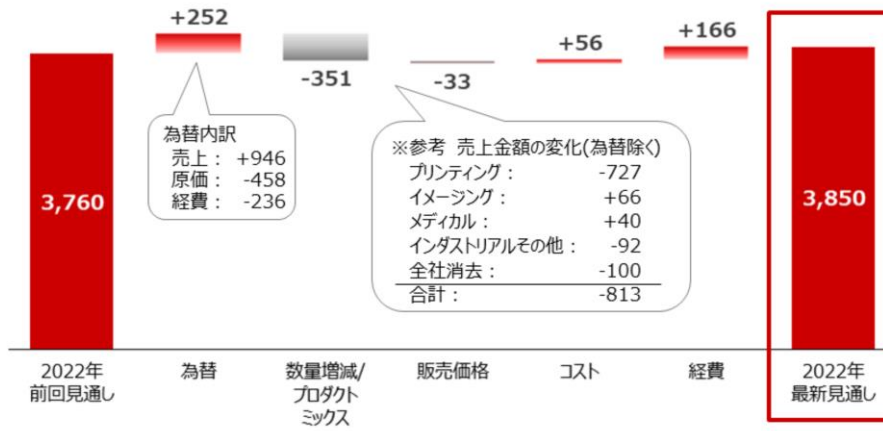
ビジネスユニット別に見ますと、対前年では、4つのビジネスユニット全てが増収増益の計画です。

対前回では需要の下振れによりプリンティングの見通しを引き下げますが、イメージングが大きく改善し、全社の利益は前回計画を上回る見通しです。

2022年 営業利益分析(年間)対前回

- 為替は、円安を踏まえ、対ドル、ユーロともに前提レートを見直し
- 数量増減は、ノンハード売上の見直し引き下げによりマイナス
- 経費は、販売関連経費を中心に好転

(億円)



営業利益の前回見通しからの変化を要素別に見ますと、

「為替」については、第3四半期の実績を反映し、見通しのレートも円安方向に見直したことで、252億円のプラスとなります。

「数量増減」については、主にレーザープリンターとインクジェットプリンターのノンハードの見直しを引き下げたことによりマイナス影響となります。

「経費」については、販売見直しを引き下げるプリンターでは抑制を図るとともに、需要が堅調なイメージングでは効率的な販促活動を徹底することで、前回見通しから好転を見込んでおります。

プリンティング（オフィス）

Canon

- 3Qは生産台数伸長、4Qはカラー中高速機中心に売上大幅増を計画
- プリントボリュームは4Qにコロナ前の約8割の水準に回復

(億円)

	3Q			年間				
	2022年 実績	2021年 実績	対前年	2022年 最新見通し	2021年 実績	対前年	2022年 前回見通し	対前回
オフィス	2,295	1,744	+31.6%	9,149	7,571	+20.8%	9,041	+108
プロシューマー	2,290	2,156	+6.2%	10,234	8,925	+14.7%	10,699	-465
プロダクション	930	692	+34.4%	3,564	2,892	+23.2%	3,460	+104
売上高計	5,515	4,592	+20.1%	22,947	19,388	+18.4%	23,200	-253
営業利益	406	603	-32.7%	2,337	2,257	+3.5%	2,519	-182
%	7.4%	13.1%		10.2%	11.6%		10.9%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2022年 3Q実績	2022年 最新見通し
オフィス	+18.7%	+11.4%
プロシューマー	-6.5%	+3.4%
プロダクション	+16.6%	+9.3%
合計	+6.6%	+7.4%

■ 台数伸び率

	2022年 3Q実績	2022年 最新見通し
オフィス複合機	+35%	+9%



カラー中高速機

『imageRUNNER ADVANCE DX C5800』

プリンティング機器の市場は、オフィス出社人数の回復に伴い、コロナの期間停滞していたオフィス複合機のリプレースが進んでいる一方で、プリンターについては、在宅勤務の減少により需要が下振れました。

オフィス複合機の当社第3四半期は、一部新たに発生した部品不足の影響を受けつつも、第2四半期から生産台数を約3割伸ばすことができました。供給量の増加によりカラーの中高速機を中心に販売を伸ばしており、第4四半期も生産・輸送・設置を着実に進め、ここ数年で最も高い台数を販売する計画です。

プリントボリュームについては、7、8月の回復は緩やかであったものの9月に入り欧米でも順調に進んでおり、第4四半期は、コロナ前である2019年の約8割の水準まで戻ると見込んでいます。

プリンティング（プロシューマー）

- 3Qは2桁の台数増も、在宅需要ピークアウトでプリント実需減が顕在化
- 4Qは本体の拡販を図り、来年以降の消耗品売上に繋げる

(億円)

	3Q			年間				
	2022年 実績	2021年 実績	対前年	2022年 最新見通し	2021年 実績	対前年	2022年 前回見通し	対前回
オフィス	2,295	1,744	+31.6%	9,149	7,571	+20.8%	9,041	+108
プロシューマー	2,290	2,156	+6.2%	10,234	8,925	+14.7%	10,699	-465
プロダクション	930	692	+34.4%	3,564	2,892	+23.2%	3,460	+104
売上高計	5,515	4,592	+20.1%	22,947	19,388	+18.4%	23,200	-253
営業利益	406	603	-32.7%	2,337	2,257	+3.5%	2,519	-182
%	7.4%	13.1%		10.2%	11.6%		10.9%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2022年 3Q実績	2022年 最新見通し
オフィス	+18.7%	+11.4%
プロシューマー	-6.5%	+3.4%
プロダクション	+16.6%	+9.3%
合計	+6.6%	+7.4%

■ 台数伸び率

	2022年 3Q実績	2022年 最新見通し
LP	+22%	+11%
インクジェット	+34%	+25%



大容量インクモデル

『GX7030』

第3四半期は、計画に沿って生産を進めることができた結果、販売台数がレーザープリンターは前年を2割、インクジェットプリンターについては3割上回りました。

しかしながら、在宅需要のピークアウトにより、欧米やアジアの各地域でプリント実需の減少が見えてきました。加えて、景気の先行きに対する懸念や金利上昇により、ディーラーやユーザーに在庫を絞る動きも見られました。

そのため本体および消耗品の年間売上見通しを引き下げますが、第4四半期については、レーザープリンターは欧米で学校の新年度に合わせてオフィスへ入社する人が増えることでプリント枚数の増加が見込まれます。本体についても欧米で販売が好調なカラー機種を中心に売上の拡大を図っていきます。インクジェットプリンターについても商戦期になりますのでプロモーションを実施して販売数量を大きく伸ばし、来年以降の消耗品の売上に繋げていきます。

プリンティング（プロダクション）

- 生産性、総保有コストの点で評価を受け、受注が増加
- 4Qは大型機の設置を効率よく進めて売上につなげる

(億円)

	3Q			年間				
	2022年 実績	2021年 実績	対前年	2022年 最新見通し	2021年 実績	対前年	2022年 前回見通し	対前回
オフィス	2,295	1,744	+31.6%	9,149	7,571	+20.8%	9,041	+108
プロシューマー	2,290	2,156	+6.2%	10,234	8,925	+14.7%	10,699	-465
プロダクション	930	692	+34.4%	3,564	2,892	+23.2%	3,460	+104
売上高計	5,515	4,592	+20.1%	22,947	19,388	+18.4%	23,200	-253
営業利益	406	603	-32.7%	2,337	2,257	+3.5%	2,519	-182
%	7.4%	13.1%		10.2%	11.6%		10.9%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2022年 3Q実績	2022年 最新見通し
オフィス	+18.7%	+11.4%
プロシューマー	-6.5%	+3.4%
プロダクション	+16.6%	+9.3%
合計	+6.6%	+7.4%



連帳機
『ColorStream 8000』



高速カットシートインクジェットプリンター
『varioPRINT iX』

10

商業印刷の分野においても景気減速による印刷物の減少や金利上昇による投資の抑制など懸念材料はありますが、一方で、エネルギーや紙などの価格上昇、印刷会社の現場における人手不足などが、コストや省力性に優れたデジタル商業印刷へのシフトを加速しています。

当社の製品はメンテナンスや印刷物の切替によるダウンタイムが少なく、オペレーション要員も少なくて済むなど、生産性や総保有コストの点で市場からの評価を高め、受注が確実に増加してきています。第4四半期は、連帳機、カットシート機ともに多くの大型印刷機の売上を計画しており、要員を最適に配置し効率よく顧客先への設置を進めていきます。

- 3Qは製品供給量増加と、APS-C新製品が加わり大幅増収
- Rシリーズの製品ラインアップ強化により需要喚起、高い収益性を維持

(億円)

	3Q			年間				
	2022年 実績	2021年 実績	対前年	2022年 最新見通し	2021年 実績	対前年	2022年 前回見通し	対前回
カメラ	1,321	1,002	+31.8%	5,201	4,331	+20.1%	4,997	+204
ネットワークカメラ他	708	536	+32.2%	2,894	2,204	+31.3%	2,714	+180
売上高計	2,029	1,538	+32.0%	8,095	6,535	+23.9%	7,711	+384
営業利益	366	177	+106.4%	1,216	787	+54.5%	981	+235
%	18.0%	11.5%		15.0%	12.0%		12.7%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2022年 3Q実績	2022年 最新見通し
カメラ	+14.6%	+6.0%
ネットワークカメラ他	+12.5%	+14.5%
合計	+13.8%	+8.9%

■ 対前年台数伸び率 (単位：万台)

	2022年3Q実績		2022年最新見通し	
	台数	伸び率	台数	伸び率
レンズ交換式	73	+14%	280	+2%



各社のミラーレスカメラと交換用レンズの新製品投入により、需要は景気減速の中でも堅調に推移しており、2022年の市場見通しは545万台と前年から微増を見込んでいます。

当社の第3四半期については、製品供給量の増加とAPS-Cサイズセンサーのミラーレスカメラの新製品「EOS R7」と「EOS R10」が加わったことで販売台数が前年から2桁伸び、レンズの売上増加と併せて大幅な増収となりました。

年間の販売台数見通しは、需要を満たすだけの十分な供給ができないため前回計画と同様の280万台になりますが、当社はミラーレスカメラEOS Rシリーズの製品ラインアップを着実に強化し、需要を喚起してきています。フルサイズセンサーモデルの「EOS R5」と「EOS R6」はプロやハイアマチュアユーザーから引き続き高い支持を受けており、さらにAPS-Cサイズセンサーの新製品2機種は、小型・軽量の特長を生かし、本格的な撮影をより気軽に楽しみたいユーザーに対し、一眼レフからの買い替えやエントリー機からのステップアップを促しています。また、RFレンズについても現時点で32モデルまで拡充しており、ユーザーに対し多様な選択肢を提供しています。

今後、さらに強固なEOS Rシステムのラインアップを築き上げていくことで、マーケットシェアの拡大と高い収益性の維持を図ってまいります。

イメージング（ネットワークカメラ）

- 3Qは前四半期に続き2桁増収、年間売上は2,000億円を超える
- 多様な製品ラインアップ展開により、事業規模の拡大を図る

(億円)

	3Q			年間				
	2022年 実績	2021年 実績	対前年	2022年 最新見通し	2021年 実績	対前年	2022年 前回見通し	対前回
カメラ	1,321	1,002	+31.8%	5,201	4,331	+20.1%	4,997	+204
ネットワークカメラ他	708	536	+32.2%	2,894	2,204	+31.3%	2,714	+180
売上高計	2,029	1,538	+32.0%	8,095	6,535	+23.9%	7,711	+384
営業利益	366	177	+106.4%	1,216	787	+54.5%	981	+235
%	18.0%	11.5%		15.0%	12.0%		12.7%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2022年 3Q実績	2022年 最新見通し
カメラ	+14.6%	+6.0%
ネットワークカメラ他	+12.5%	+14.5%
合計	+13.8%	+8.9%



『AXIS M3057-PLVE Mk II』



『AXIS P4705-PLVE』

12

コロナウイルス感染やウクライナ情勢など不安定な世界情勢が続く中、人々の安心安全に対するニーズは根強く、インフラ投資の継続により当社の第3四半期の売上は、前四半期に引き続き2桁の増収となりました。第4四半期はさらに売上を伸ばし、年間で2,000億円を大きく超える事業となります。

ネットワークカメラは、様々な場所、状況で必要性が高まっています。当社は9月に暗所や逆光のような明暗差のある場所でも撮影できるモデルや、振動に強く360°撮影可能なバスや電車など公共交通機関向けモデルの新製品を発表しました。今後も競争力のある多様な製品ラインアップを展開し、拡大するニーズを取り込みながら事業規模を拡大してまいります。

- 大型装置を中心に9月末の受注残は過去最高を更新
- 生産・輸送・据え付けを進め、年間売上5,000億円超えを目指す

(億円)

	3Q			年間				
	2022年 実績	2021年 実績	対前年	2022年 最新見通し	2021年 実績	対前年	2022年 前回見通し	対前回
売上高計	1,261	1,157	+9.0%	5,219	4,804	+8.6%	5,092	+127
営業利益	64	60	+7.5%	382	294	+29.8%	400	-18
%	5.1%	5.2%		7.3%	6.1%		7.9%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2022年 3Q実績	2022年 最新見通し
合計	+0.6%	+0.9%



80列 CT
『Aquilion Serve』



超音波診断装置
『Aplio go/Aplio flex』

13

画像診断装置の市場は、コロナ禍で控えられていたCTやMRIなどの大型装置への投資が欧米を中心に回復してきております。

当社の第3四半期は、欧州やアジアを中心に、特に超音波診断装置が部品不足の対応を進め供給量を増加させたことで、高画質で市場から高い評価を受けているプレミアムクラスの販売を伸ばし、前年から増収を達成しました。

第4四半期の売上大幅増に向け、販売力強化を進めている米国を含む海外において、CTやMRIなどの大型装置を中心に受注を順調に積み上げ、9月末の残高は過去最高であった6月末からさらに増加しました。これらの受注残を今年中にできる限り販売に繋げるために、生産・輸送・医療機関への据え付けを効率よく進め、四半期としては初めてとなる1,500億円を超える売上を目指しています。

年間でも売上を5,000億円の大台に乗せ、来期以降も米国に加え欧州やアジアなどその他の海外地域でも販売力を強化し、事業を拡大していきます。

インダストリアルその他（露光装置/産業機器）

Canon

- 半導体向けはさらなる需要拡大に応えるため、新工場建設を決定
- パネル向けは、OLED需要拡大に備え準備を進める

(億円)

	3Q			年間				
	2022年 実績	2021年 実績	対前年	2022年 最新見通し	2021年 実績	対前年	2022年 前回見通し	対前回
露光装置	645	524	+22.9%	2,406	2,137	+12.6%	2,452	-46
産業機器	221	290	-23.7%	921	1,218	-24.4%	988	-67
その他	679	490	+38.8%	2,597	2,102	+23.5%	2,542	+55
売上高計	1,545	1,304	+18.5%	5,924	5,457	+8.5%	5,982	-58
営業利益	160	15	+986.6%	583	443	+31.6%	568	+15
%	10.4%	1.1%		9.8%	8.1%		9.5%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2022年 3Q実績	2022年 最新見通し
露光装置	+19.2%	+9.7%
産業機器	-24.7%	-25.8%
合計	+15.0%	+5.8%

■ 露光装置台数 (単位: 台)

	2022年 3Q実績	2021年 3Q実績	2022年 最新見通し	2021年 実績
半導体	50	39	180	140
FPD	15	15	52	67



半導体露光装置
『FPA-6300ES6a』

14-1

2022年の半導体デバイス市場は、PCやモバイル向けメモリ需要に減速が見られるものの、パワーデバイスやロジックなどが伸び、初めて5,000億ドルを超えた昨年の規模をさらに上回る見通しです。

当社は、第3四半期に50台の半導体露光装置を販売し、第4四半期は61台まで伸ばす計画です。今年は昨年よりも40台多い180台を見込んでいますが、来年以降も拡大する需要に最大限応えるため、現在進めている既存の建屋でのスペース増設に加え、宇都宮事業所内に新工場を建設することを決定いたしました。生産能力を現在の2倍に引き上げ、今後マーケットシェアの拡大を図るとともに、最先端の装置であるナノインプリントの増産にも活用していく予定です。

インダストリアルその他（露光装置/産業機器）

Canon

- 半導体向けはさらなる需要拡大に応えるため、新工場建設を決定
- パネル向けは、OLED需要拡大に備え準備を進める

(億円)

	3Q			年間				
	2022年 実績	2021年 実績	対前年	2022年 最新見通し	2021年 実績	対前年	2022年 前回見通し	対前回
露光装置	645	524	+22.9%	2,406	2,137	+12.6%	2,452	-46
産業機器	221	290	-23.7%	921	1,218	-24.4%	988	-67
その他	679	490	+38.8%	2,597	2,102	+23.5%	2,542	+55
売上高計	1,545	1,304	+18.5%	5,924	5,457	+8.5%	5,982	-58
営業利益	160	15	+986.6%	583	443	+31.6%	568	+15
%	10.4%	1.1%		9.8%	8.1%		9.5%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2022年 3Q実績	2022年 最新見通し
露光装置	+19.2%	+9.7%
産業機器	-24.7%	-25.8%
合計	+15.0%	+5.8%

■ 露光装置台数 (単位：台)

	2022年 3Q実績	2021年 3Q実績	2022年 最新見通し	2021年 実績
半導体	50	39	180	140
FPD	15	15	52	67



半導体露光装置
『FPA-6300ES6a』

14-2

パネル市場は、コロナによる在宅関連需要のピークアウトに加え、世界的なインフレや景気減速によるPC、TV、スマートフォンなどの販売減が影響し、前年から減少となる見通しですが、中期的には各種製品へのOLEDパネルの需要拡大が牽引し、成長が期待できます。

当社のFPD露光装置については、第3四半期は計画通りに設置を完了し、昨年と同じ15台の売上を計上しました。第4四半期は一部の部品逼迫の影響や顧客側での設置場所工事の遅延などにより数台来年に販売を繰り越す見込みですが、16台の設置を行い、年間で52台を販売する計画です。

有機EL蒸着装置は、大型パネル向けを中心としたパネルメーカーの投資計画はあるものの、採用する基板サイズなど生産方法の検討が継続しております。今年は端境期に当たるため売上は前年を下回る見通しですが、大型パネル向け装置も加わったことで商談は少しずつ活気づいてきており、来期以降の業績回復に向け準備を進めております。

- 第4四半期の売上拡大に向けて9月末の製品在庫は増加
- 部品ひっ迫は緩和傾向、生産安定化で工場在庫も年末には適正化

(億円)

		2021年				2022年		
		3月末	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末	9月末
プリンティング	金額	2,373	2,320	2,692	2,855	3,247	3,536	4,081
	日数	45	44	52	53	58	60	67
イメージング	金額	987	940	984	1,014	1,171	1,266	1,436
	日数	54	54	55	55	63	64	65
メディカル	金額	998	1,018	1,085	1,091	1,205	1,294	1,377
	日数	75	79	87	82	89	100	103
インダストリアル その他	金額	1,600	1,613	1,602	1,545	1,709	1,885	1,945
	日数	103	112	109	100	112	128	119
合計	金額	5,959	5,891	6,363	6,506	7,332	7,981	8,839
	日数	61	62	68	66	73	78	81

15

第3四半期は一部の製品を除きほぼ計画通りに生産が進捗し、9月末の在庫は、製品在庫の増加により8,839億円となりました。

第4四半期は、カメラやインクジェットプリンターなどのコンシューマー製品は年末の商戦期を迎え、またオフィス複合機やメディカル、露光装置も製品供給量が大きく増加していますので設置まで効率よく進め、1兆2,000億円を超える売上を目指していきます。

また、部品逼迫の解消にはもう少し時間を要すると思われませんが、状況は一時期よりも改善し生産も安定化してきており、工場の部品在庫についても通常の水準に向けて徐々に減少していく見込みです。

キャッシュフロー(年間)

- 今年度も4,000億円を超える営業キャッシュフローを創出
- 宇都宮に新工場建設を決定。今後も成長投資を最優先に行う

(億円)	2022年 最新見通し	2022年 前回見通し	2021年 実績	2020年 実績
営業活動によるキャッシュフロー	4,300	4,950	4,511	3,338
投資活動によるキャッシュフロー	-2,400	-2,400	-2,073	-1,554
フリーキャッシュフロー	1,900	2,550	2,438	1,784
財務活動によるキャッシュフロー	-2,289	-2,867	-2,674	-1,834
為替変動影響	375	303	173	-1
現預金の純増減額	-14	-14	-63	-51
現預金の期末残高	4,000	4,000	4,014	4,077
手元回転月数	1.1	1.1	1.3	1.4
設備投資	2,100	2,100	1,790	1,617
償却費	2,200	2,200	2,212	2,278

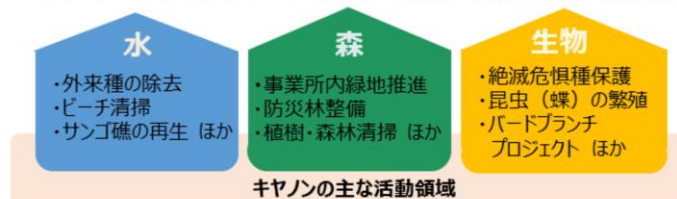
16

今期は第4四半期に売上が大きく伸びることで年末の売上債権が増加するため、営業キャッシュフローが昨年よりはわずかに減少するものの、4,300億円を創出する予定です。

昨年まで抑えていた将来に向けた設備投資を増額するとともに、M&Aの資金も確保しております。株主還元については、一株当たりの配当金を20円増額し120円にする見通しであるのに加え、2度に渡り合計1,000億円の自社株買いを実施しました。

先日、宇都宮事業所に半導体露光装置の新工場を建設することを発表しましたが、今後も成長投資へ最優先に資金を振り向けながら、株主還元は安定的、かつ積極的に行っていきます。

■ 「ネイチャーポジティブ」をスローガンに生物多様性保全活動を実施



● より豊かな生態系をめざす「キヤノンバードブランチプロジェクト」

■ 鳥が生息しやすい環境の整備



緑地整備



巣箱設置

■ 「生命の循環」について考える機会の提供



野鳥観察会



HPを通じた情報発信

● 自然環境や生物多様性の保全を図る環境省主催の「30by30アライアンス」へ参加



17

世界経済フォーラムが発行する今年度の「グローバルリスク報告書」で「生物多様性の喪失」が上位に位置するなど、昨今世界共通の課題として「生態系の保全」に注目が集まっています。

当社は、生物多様性の損失を食い止め、回復させる「ネイチャーポジティブ」をスローガンに、水、森、生物を主な領域として、緑地整備や環境教育など、地域に根差した生物多様性の保全活動に取り組んでおります。

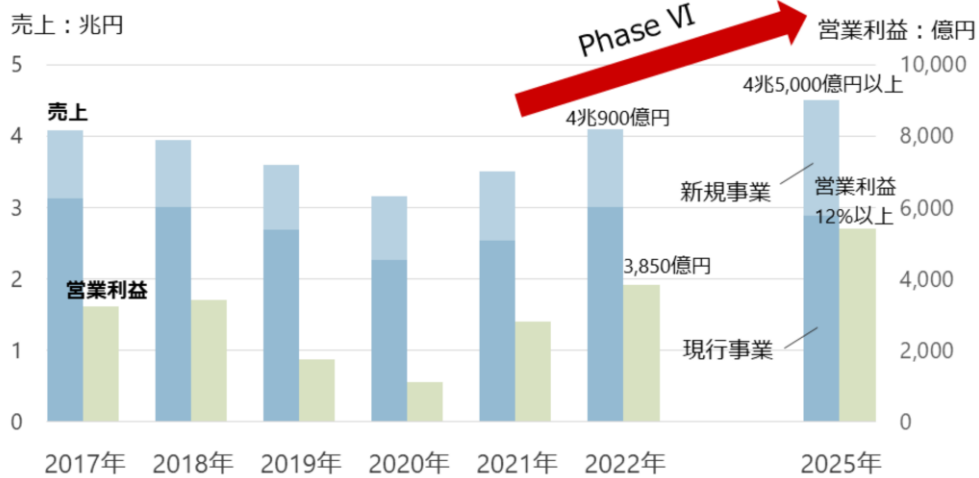
例えば、鳥をシンボルとした生態系保全活動である「キヤノンバードブランチプロジェクト」を展開しています。各事業所において鳥が生息しやすい環境を社員自らの手で整備しており、東京本社敷地内には約1,000本の樹木が生い茂っております。観測された野鳥の種類は、2014年のプロジェクト発足時の11種から、現在は3倍以上の36種まで増加し、さらには野鳥観察会など各種イベントの開催や鳥に関する情報の発信を通じて「生命の循環」について考える機会を提供しています。

引き続き当社事業所を中心とした自然環境や生物多様性の保全を図るとともに、野鳥の種類や個体数など生態系の調査を行い、そこで得られたデータを研究機関と連携し、学術研究にも活かしてまいります。

当社は、環境省が推進し、陸と海の30%以上を自然環境エリアとして保全を目指す活動「30by30 アライアンス」にも参加しており、このような活動を通じて、生物多様性の保全に貢献してまいります。

グローバル優良企業グループ構想Phase VI Canon

■ 事業ポートフォリオの多角化、高い海外売上比率・国内生産比率により不安定な事業環境下でも成長を続け、2025年の目標達成へ



当社は、これまで、事業ポートフォリオの転換により多角化された事業を展開しており、経済環境が不安定な時も各事業がお互いの好不調の波を補い合う形が確立しています。足元でプリンティングの需要がやや下振れする中でも、カメラや半導体露光装置、メディカルなどがしっかりと業績を伸ばしています。

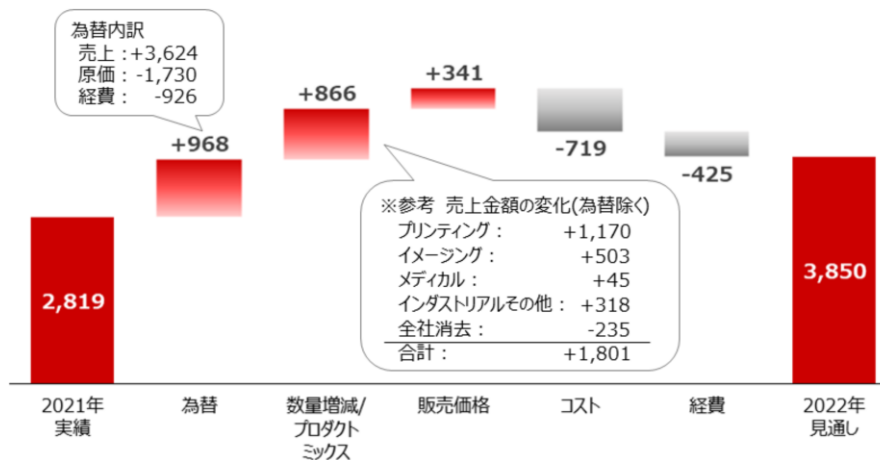
また、グローバル戦略により海外の売上が約8割を占めており、生産は国内回帰を進めてきたことでリスクを極力回避し、現在は円安基調の中でプラスの影響を受けています。

不安定な経済環境の下でも、開発、調達、生産、販売の総合力を発揮しながら、今後も2025年の目標達成に向け成長を続けてまいります。

參考資料

2022年 営業利益分析(年間)対前年

(億円)



■プリンティング ハード/ノンハード別 対前年売上伸び率

			2022年		2021年	
			3Q 実績	年間 見通し	3Q 実績	年間 実績
オフィス複合機	円貨	ハード	+75%	+40%	-11%	+7%
		ノンハード	+14%	+10%	+4%	+3%
	LC	ハード	+54%	+26%	-14%	+3%
		ノンハード	+3%	+1%	+1%	0%
LP	円貨	ハード	+53%	+36%	-19%	+2%
		ノンハード	-8%	+6%	+62%	+17%
	LC	ハード	+32%	+21%	-21%	-1%
		ノンハード	-18%	-3%	+58%	+14%
インクジェット	円貨	ハード	+33%	+40%	-19%	+6%
		ノンハード	-18%	-5%	0%	-2%
	LC	ハード	+17%	+26%	-23%	+2%
		ノンハード	-27%	-14%	-3%	-6%
プロダクション	円貨	ハード	+46%	+30%	+8%	+18%
		ノンハード	+29%	+19%	+13%	+14%
	LC	ハード	+25%	+14%	+4%	+13%
		ノンハード	+12%	+7%	+9%	+9%

■ オフィス/プロシューマー 製品別売上高

(億円)		2022年		2021年	
		3Q 実績	年間 見通し	3Q 実績	年間 実績
オフィス	オフィス複合機	1,506	5,922	1,076	4,784
	オフィスその他	789	3,227	668	2,787
		2,295	9,149	1,744	7,571
プロシューマー	LP	1,515	6,558	1,371	5,631
	インクジェット	775	3,676	785	3,294
		2,290	10,234	2,156	8,925

■ レンズ交換式カメラ比率 / コンパクトカメラ台数

	2022年		2021年	
	3Q 実績	年間 見通し	3Q 実績	年間 実績
レンズ交換式カメラ比率				
金額ベース ※	93%	93%	90%	90%
台数ベース	89%	85%	70%	70%
コンパクトカメラ台数 (万台)	9	50	28	115

※交換レンズも含む

■ 半導体露光装置台数 光源別内訳

(単位: 台)

	2022年		2021年	
	3Q 実績	年間 見通し	3Q 実績	年間 実績
KrF	11	51	10	38
i線	39	129	29	102
合計	50	180	39	140